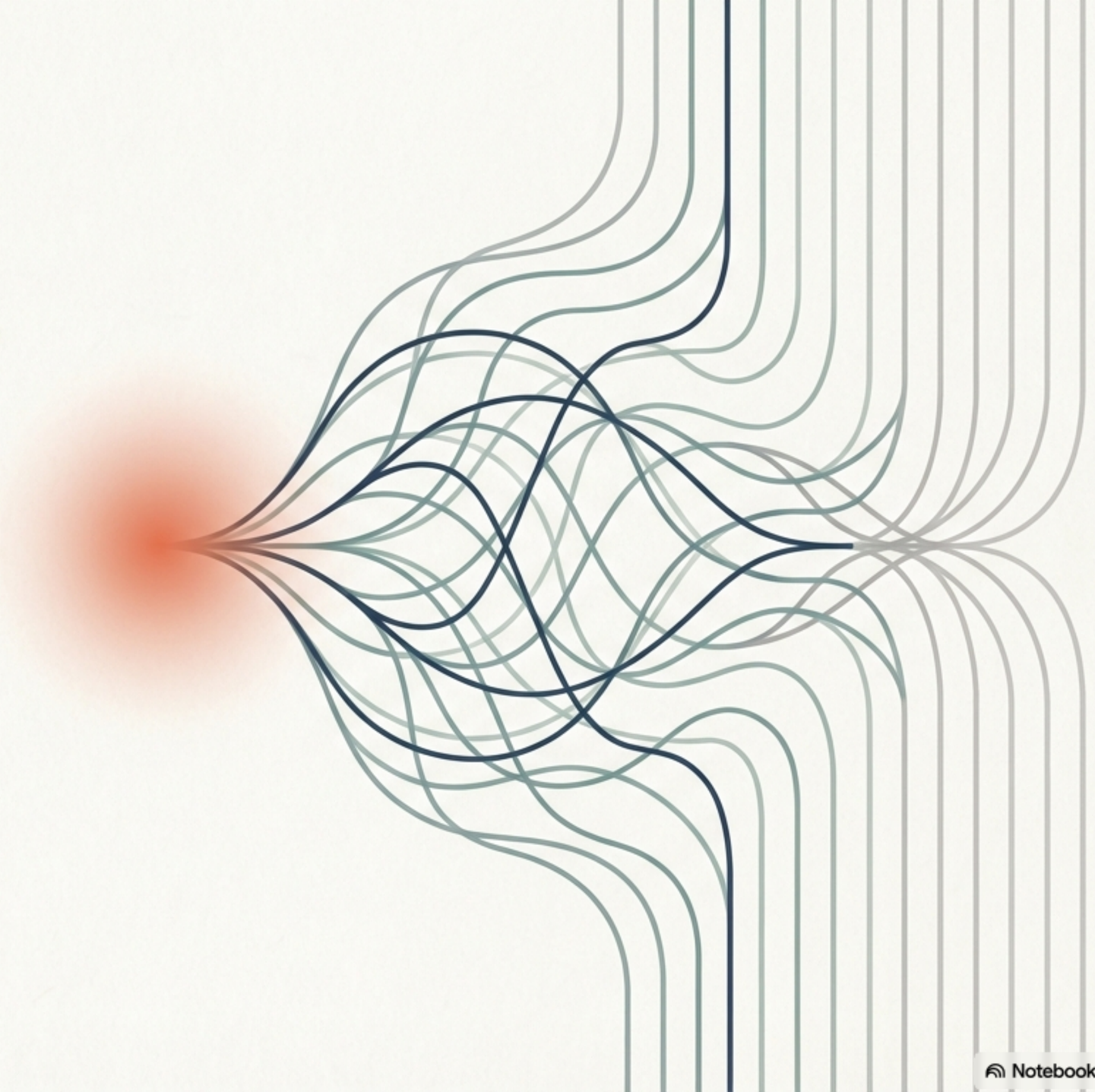
新しい時代が求める教育のかたち：学習指導要領の改訂とアクティブ・ラーニング

21世紀型能力の育成を核とした、
主体的・対話的で深い学びへの転換



NotebookLM

なぜ今、教育改革なのか？世界が定義する「21世紀型スキル」

知識基盤社会を「他者と協働しつつ創造的に生きていく」ために、世界中の教育者が
新たな能力の育成を提唱しています。その国際的な共通理解が「21世紀型スキル」です。

思考の方法

- 創造性と革新性
- 批判的思考・問題解決・意思決定
- 学習能力・メタ認知

仕事の方法

- コミュニケーション
- コラボレーション（チームワーク）

学習ツール

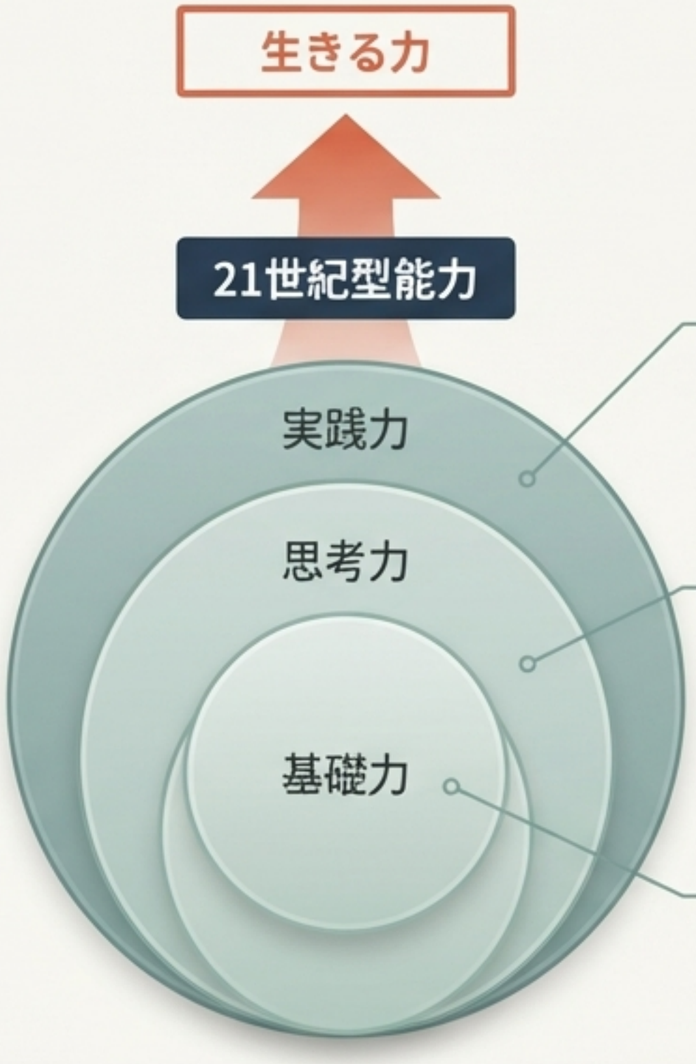
- 情報リテラシー
- 情報コミュニケーション技術（ICT）リテラシー

社会生活

- 市民権（地域および地球規模）
- 生活と職業
- 個人的責任および社会的責任

NotebookLM

日本の文脈：「21世紀型能力」と、その先にある「生きる力」



Direction (方向づける) : 実践力 (Practical Skills)

「自分やコミュニティ、社会にとって価値のある解を導き、社会に発信し協調的に吟味できる力」

構成要素：自律的活動力、人間関係形成力、社会参画力・持続可能な未来への責任

Core (中核) : 思考力 (Thinking Skills)

「自ら学び判断し自分の考えを持って、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創り出す力」

構成要素：問題解決・発見力・創造力、論理的・批判的思考力、メタ認知、適応的学習力

Support (支える) : 基礎力 (Foundational Skills)

「言語、数、情報（ICT）を目的に応じて道具として使いこなすスキル」

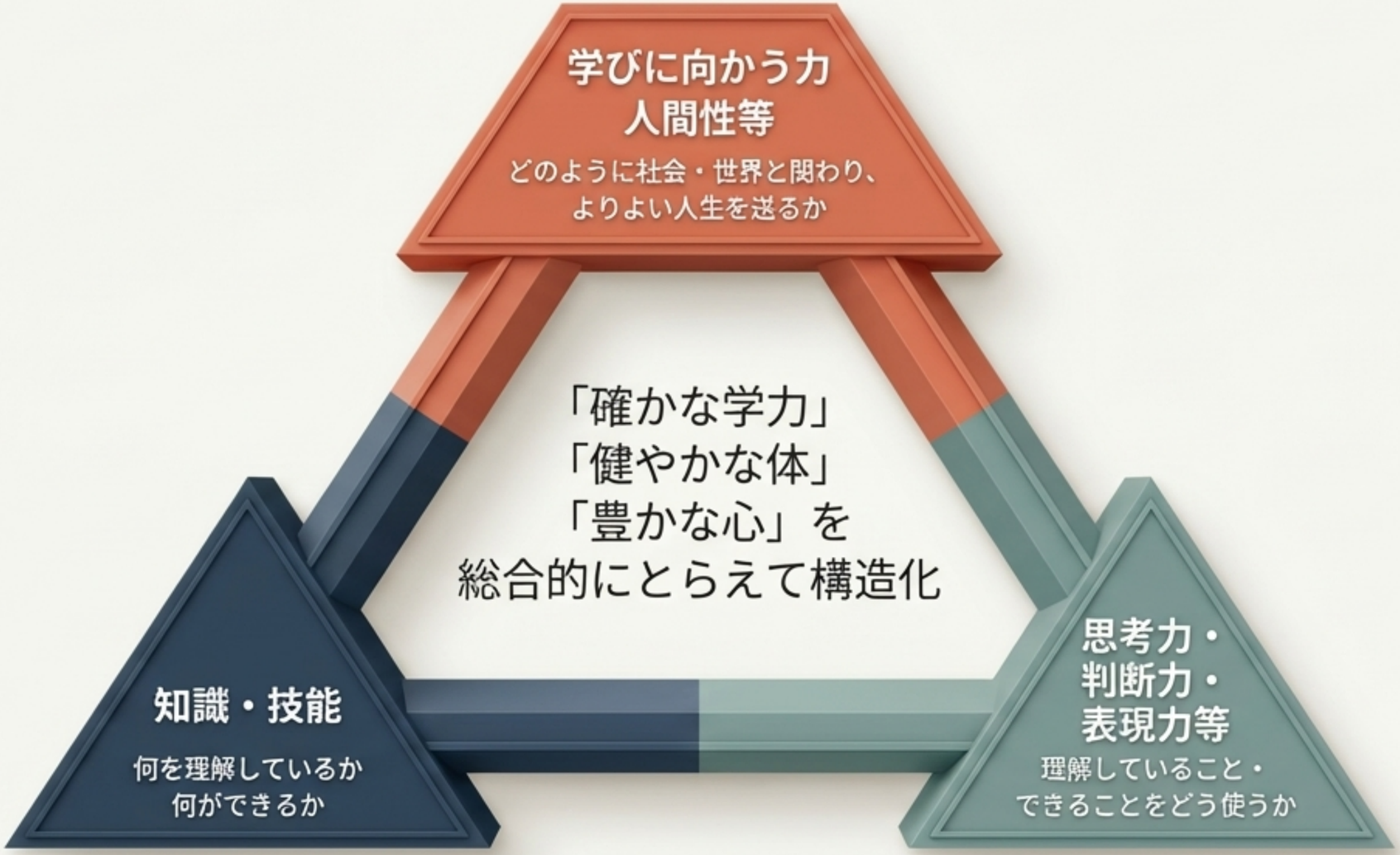
構成要素：言語スキル、数量スキル、情報スキル

この能力育成の最終目標は、変化の激しい社会を主体的に生き抜くための「生きる力」の涵養です。

NotebookLM

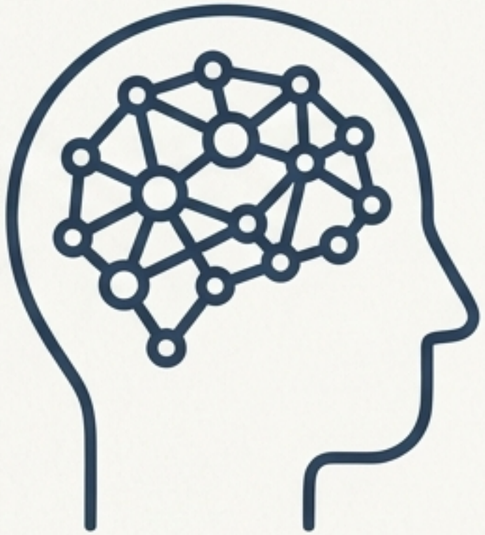
教育改革の羅針盤：新学習指導要領が示す「育成を目指す資質・能力の三つの柱」

「21世紀型能力」を育成するため、新しい学習指導要領では、すべての教科・科目等の学習の土台となる資質・能力を、以下の「三つの柱」として整理しています。



NotebookLM

柱① 知識・技能

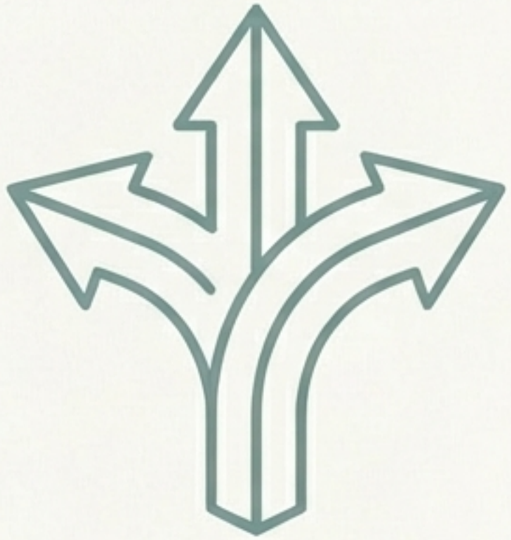


何を理解しているか、何ができるか

- 知識基盤社会において、個別の知識は断片的に存在するだけでは機能しません。
- 個々の知識が相互に関連づけられ、社会の中で生きて働く「概念的な理解」を伴うこと。
- 新たな学習によって絶えず知識を再編し、活用できる状態にすることが求められます。

NotebookLM

柱② 思考力・判断力・表現力等



理解していること・できることをどう使うか

- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成を目指します。
- 具体的には、問題を発見し、解決の方向性を定め、計画を立てて実行し、そのプロセスを振り返って次へと繋げる一連のサイクルを指します。

NotebookLM

柱③ 学びに向かう力・人間性等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

- 学びを人生や社会に生かそうとする、情意や態度に関わる力です。
- 自らの学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む「主体性」、多様性を尊重する「協働性」、社会の形成に参画する態度などが含まれます。
- 「生きる力」の根底を支える重要な要素です。

NotebookLM

教室の実践へ：学びを駆動する「アクティブ・ラーニング」というエンジン

新学習指導要領が目指す資質・能力の育成は、授業改善によって実現されます。
その中核となるのが、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業、すなわちアクティブ・ラーニングです。

NotebookLM

学びの視点①：深い学び

習得・活用・探究という学習プロセスを通じ、知識を体系化し、応用する力を育む。

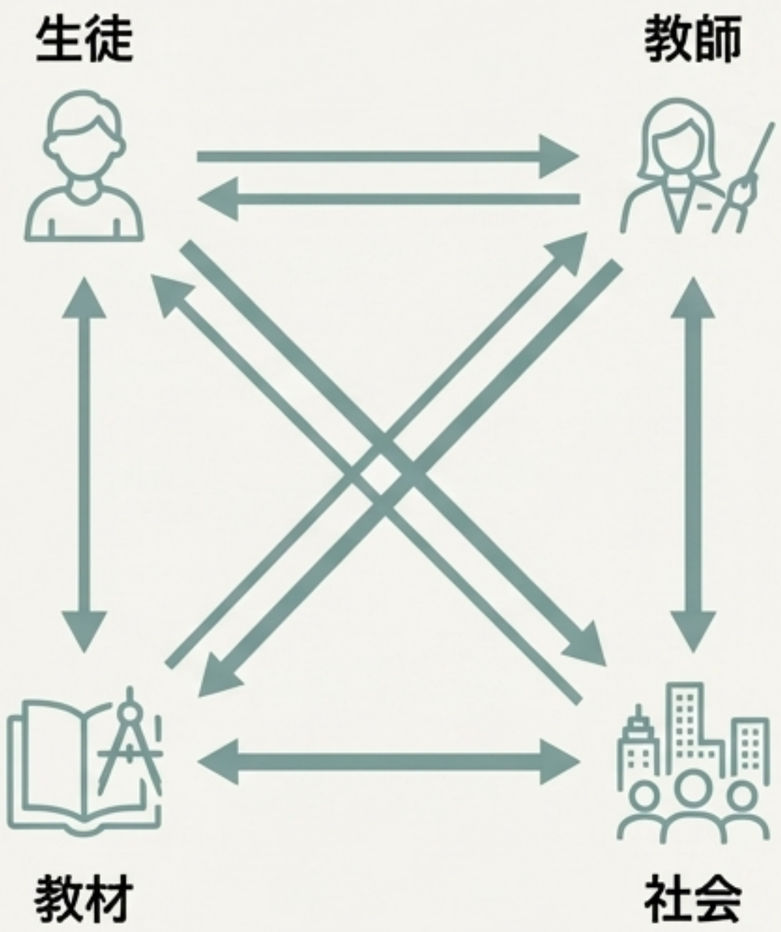
- 学習者が既に学んだことと、新たに学ぶことを関連づけます。
- 単なる知識の暗記ではなく、問題発見・解決を念頭に置いた学習を通して、知識が互いに関連づけられ、体系化されていくことを目指します。
- 教科としての体系的な見方・考え方を働かせることが可能になります。

NotebookLM

学びの視点②：対話的な学び

他者や社会、教材との相互作用を通じて、自らの考えを広げ、深める。

- 「対話」には、子ども同士、教師と子どもの対話が含まれます。
- さらに、本や教材、社会の出来事など、外界のモノや表現とのやりとりも重要な対話です。
- 多様な考えに触れ、やりとりをすることで、物事の複眼的で深い理解に到達します。



NotebookLM

学びの視点③：主体的な学び

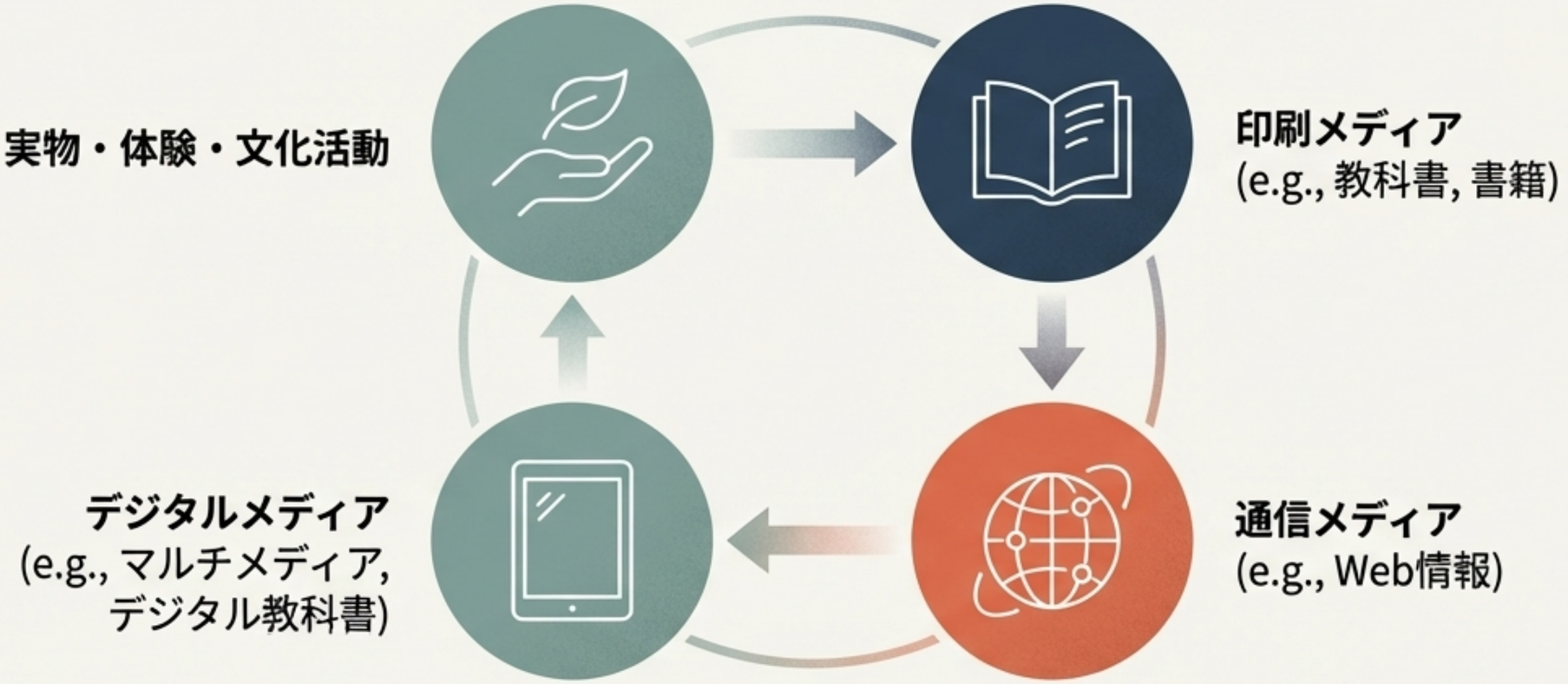
見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習を振り返って次へとつなげる。

- 意欲を持って学習に取り組むことから始まり、困難な課題にも諦めずに解決法を工夫する力を養います。
- 自分の学習活動を振り返り、自分の間違いや他者の良さを自覚し、多面的な理解を深めていきます。
- 最終的に「意欲から意志へ、そして自覚する学習者者へ」と成長を促します。

NotebookLM

学びを支える環境設計：4つの教育用メディア領域

主体的・対話的で深い学びを実現するには、学習者がメディアを主体的に選択・組み合わせできる環境が不可欠です。
教育用メディアは、以下の４領域で構成されます。



これらのメディアは単独でなく、相互に変換・連携させて活用することが、新しい学習の可能性を拓きます。

NotebookLM

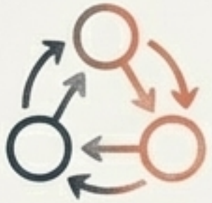
全体像の理解：変化の潮流から、教室の実践まで

新学習指導要領による教育改革

Stage 1 (The "Why" - Global)
世界の潮流：21世紀型スキル

Stage 2 (The "Why" -Japan)
日本の文脈：21世紀型能力

Stage 3 (The "What")
戦略的枠組み：資質・能力の三つの柱



Stage 4 (The "How")
実践的エンジン：主体的・対話的で深い学び

NotebookLM

未来への展望：これからの教育が育む「生きる力」

学習指導要領の改訂、そしてアクティブ・ラーニングの実践は、単なる教育手法の変更ではありません。
それは、予測困難な未来を、自らの意志でたくてましく、そして豊かに生き抜くための「生きる力」を、すべての子どもたちに育むという、未来への約束です。

NotebookLM